

農業委員等が作成した農地利用図を基に農地集積を推進

(^{とどろきちく}鹿児島県始良郡湧水町轟地区)

中山間地域

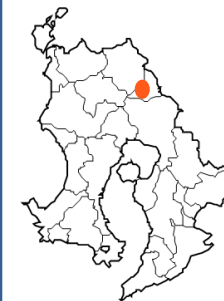
地域の状況

- 轟地区(稲葉崎集落外9集落)は、町西部に位置し、水稻や根深ネギ等の栽培や畜産が盛んではあるが、第2種兼業農家の割合が非常に高く、農業者の高齢化が進むにつれて離農者等が増加し、**担い手への集積率は僅か7%**に止まっていた。
- このような状況の中、H28年、同町農業委員会は次世代に優良農地を継承する目標を掲げ、人・農地プランの区域毎(14地区)に農業委員と農地利用最適化推進委員(以下「農業委員等」という。)を割り当てるなど町内の推進体制を整備し、人・農地プランに基づく担い手への農地集積の推進に向けていち早く動き始めていた。

取組の内容

- ① H28年、本地区内の田尾原集落の農道整備(中山間地域総合整備事業等)と併せて、農地中間管理機構(以下「機構」という。)を活用した担い手への農地集積(9.8ha)が進み、地区内で農地集積の関心が高まっていた。
- ② H29年8月から、地区担当の**農業委員等の2人1組で町内の農業者を巡回訪問**し、今後の農地利用や後継者の有無等に係る聞き取り調査を行い、**農業委員等自ら**農地の現状(耕作者年齢・多数筆耕作者区分別分布等)を集約した**農地利用図を作成**した。
- ③ H30年5月、本地区内の稲葉崎集落から町に対して農地中間管理事業説明会の開催要請があったことを受け、町は同集落を**機構の重点実施区域に指定**し、機構を活用した農地集積に向けて本格的な検討を行うことになった。
- ④ 同年8月、農業委員等が中心となって、稲葉崎水土里保全会(**多面的機能支払組織**)の**話合いの場を活用**して集落の話合いを開始し、②の**農地利用図や将来の集積・集約化プランの地図**等を示しながら、**参加した全員が納得できるまで根気強く何度も話合い**を重ね、参加者の理解を得ていった。
- ⑤ 同年9月、集落の総会において、**人・農地プランに位置づけた中心経営体**(以下「中心経営体」という。)への農地集積や水土里保全活動などの方針を決議し、同月、**機構を活用して同者に農地集積**(10.2ha)した。
- ⑥ 稲葉崎集落での取組は**周辺集落にも波及**し、本地区内の各集落においても④と同様の話合いが行われ、同年から広田集落(集積面積16.6ha)、興辺集落(同5.4ha)、二渡集落(同11.5ha)などで機構を活用した農地集積を行った。

鹿児島県湧水町



農地利用図作成の様子



稲葉崎集落説明会の様子

成果

- 多面的機能支払組織を活用して農地集積を推進した結果、多面的機能支払や地域集積交付金などの**各種事業を一括して協議する仕組みが確立**し、地区全体で**担い手が利用する農地面積は50ha増加**(集積率は24%)した。
- 町と農業委員会が連携して、**人・農地プランの取組と機構の活用をリンク**させて農地集積に取り組んだ結果、本地区での機構の転貸面積は80haを超えるとともに、中心経営体への農地集積が地区内面積の5割を超えた。また、令和2年度末には**町内全14地区において人・農地プラン実質化の取組が完了**した。
- 今後担い手への集積をさらに高めるため、中心経営体に定めている今後育成すべき農業者等の非担い手の集落営農などの組織化(法人化)に取り組むことを検討しているところである。



農地集積に取り組んだ地区の流れ